

2022年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園
藤幼稚園・藤保育園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

I 保育の計画性

		A評価	B評価	C評価	D評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	20.6%	79.4%	0%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	4.0%	92.0%	4.0%	0%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	0%	96.0%	4.0%	0%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	6.5%	90.3%	3.2%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間を構成する	6.5%	93.5%	0%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	9.7%	90.3%	0%	0%
	幼児の発達や生活を見通した環境を構成する	6.5%	87.0%	6.5%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	9.1%	90.9%	0%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「園の教育方針等の理解」では、「よく出来ている」(以下、「A評価」という。)&「まあまあ出来ている」(以下、「B評価」という。)&「あまり出来ていない」(以下、「C評価」という。)&「出来ていない」(以下、「D評価」という。)のうち、「A評価」「B評価」の合計は、100%となりA評価の割合が前年の32.3%から20.6%へ低下した。

「教育課程の編成」では、「A評価」と「B評価」を合わせて96%となり、前年より4%増加、「指導計画の作成」でも、「A評価」と「B評価」を合わせて96%となり、前年より5.1%増加する結果となった。A評価の割合が、前年よりそれぞれ16%と22.7%低下した要因として、本年度、改めて教育課程の編成と指導計画の作成について、その重要性を意識し取り組み始めたことから、教職員が自身の取組みについてこれまで以上に考えていることが窺える。

「環境の構成」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は、「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は97.6%となり、前年より2%増加した。環境を通して教育・保育を行うことの重要性を理解し実践する姿が継続している結果となった。

「評価・反省」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて前年度と同じく100%となったものの、A評価の割合が前年より13.5%低下した。全ての教職員が日常から自らの保育を評価・反省し、次の保育に生かすことを意識し

改善に努めようと思いつつも、どう生かしていくのか模索していることが窺える。

全ての項目で、前年度より「A評価」と「B評価」の割合の合計が増加したものの、「A評価」の割合は全ての項目で低下した。教育課程に基づき、幼児の発達に即して幼児期に相応しい生活を展開できるよう、具体的に指導計画を立て取り組む保育の計画性の重要性を教職員全体に浸透させていく。

II 保育のあり方、幼児への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
健康と安全への配慮	園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	25.0%	71.9%	3.1%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	24.2%	75.8%	0%	0%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	12.1%	81.8%	6.1%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	18.2%	81.8%	0%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	17.2%	79.4%	3.4%	0%
指導と関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	40.6%	59.4%	0%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	51.5%	48.5%	0%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	21.2%	78.8%	0%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	24.2%	75.8%	0%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	33.3%	67.7%	0%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	33.3%	67.6%	3.1%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「健康と安全への配慮」の項目では、園内の危険な箇所、危険な遊び方をしていないかを常に配慮することについて前年より「A評価」の割合が低下し、「C評価」を付けた割合が3.1%となった。小さい年齢の子どもの遊びの中で危険が予測される時に、その危険を回避することを子どもと一緒に考えるのではなく提案してしまうことに気付き、年齢による難しさを感じている。園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温については、「A評価」の割合が前年より低下したものの「B評価」との合計は100%となった。園内の清掃や整理整頓、消毒・換気は、新型コロナウイルス感染症の予防のため日常化しているが、今後も徹底していきたい。

「幼児理解」では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均96.8%であり、前年度より1%低下し「A評価」の割

合も平均で7%低下した。幼児理解は、保育のあり方・幼児への対応に不可欠なものであり、全ての教職員が幼児一人ひとりの育ちを理解する力と課題について見通しをもって対応する力を高めていけるよう、今後も幼稚園舎の「ドキュメンテーション」と保育園舎の「ラーニングストーリー」の取組を継続していく。

「指導と関わり」の項目では、前年に引き続き全ての項目が「A評価」と「B評価」を合わせて100%となった。全ての職員が幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動し、幼児が自ら考えるよう幼児への関わりをととても重視しながら保育に当ることが浸透してきたことが窺えるが、更に幼児との関わり方の質を高めていくために、配置基準の見直し、日々の保育における余裕の無さ、制作や行事の内容について課題を感じている。

「保育者同士の協力・連携」の項目では、前年と全く同じ結果となる中、「A評価」の割合が昨年度より7%増加した。一方で、お互いの保育について保育者同士が話し合い向上していこうとする環境が整っていないと問題意識を感じている職員もいた。問題解決のため、何でも話し合える雰囲気づくりをこれまで以上に意識し、保育者同士の関係性を高めていきたい。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	36.7%	63.3%	0%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	33.3%	66.7%	0%	0%
要望等への対処の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	26.7%	70.0%	0%	3.3%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「情報の発信と受信」「対応上の心がまえ」の項目では、前年に続き「A評価」と「B評価」を合わせて100%となった。「要望等への対処の仕方」の項目では、「D評価」があり、保護者への対応について職員間で共通理解ができなかったと感じている案件があった。

保育園舎の「みてみてストーリー」や幼稚園舎のドキュメンテーションは、子どもたちの成長を保護者にお伝えすることで、ともに喜びあうことが増加し、保護者との良好な関係づくりにも繋がっていることを実感している職員が増加している。保護者とのコミュニケーションの大切さを全ての教職員が理解し、今後も引き続き、保護者の皆さんに丁寧な対応を心掛け、「A評価」の割合を高めていきたい。

Ⅳ 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	12.0%	60.0%	28.0%	0%
子育て支援と地域への開放	保護者及び未就園家庭の子育ての支援や地域への開放に努めている	15.0%	60.0%	25.0%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計は、前年度より14.3%低下した。今年度も、可能な限りこれまで実施してきたことを継続し、2年ぶりに芋掘りも実施でき園庭で植物を育てたり野菜を育てたりすることや、アクティブシニアの方々との花育活動、「絵本の読み聞かせ」ボランティアさん、年長児の地域の施設訪問やその他の学年の園外保育に加えて、前年は実施できなかった豊が丘中学校の職場体験も受け入れるなど、昨年以上に地域・自然・人々と関わる機会があったが、教職員の評価は低下する結果となった。職員により、地域・自然・人々との関わりについて意識が異なることが考えられる。地域・自然・人々との関わりについて、職員全体で話し合い確認する必要がある。

「子育て支援と地域への開放」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計が前年より5%低下し、「D評価」が無くなり「C評価」の割合が前年より15%増加した。子育て支援は、認定こども園の役割の一つであり、未就園親子を対象に実施している“くまのみクラブ”は、地域の多くの未就園児親子が集まれる場となっている。今年度から、保護者の子育て支援を加えたことから、「D評価」が無くなったと考えられる。保護者への子育て支援の必要性が増しており、外部カウンセラーによる子育て相談を月1回園内で実施していることを、保護者の皆さんに周知していきたい。「A評価」と「B評価」の割合を高めていけるよう、全ての教職員で取り組んでいきたい。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への 意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	7.1%	75.0%	10.7%	7.1%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	16.7%	70.0%	10.0%	3.3%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「研修・研究への意欲・態度」では、「A評価」の割合は前年度より15.1%低下したが、「B評価」の割合が26.9%増加し、合計では前年度より11.8%増加した。昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、全く実施されなかった外部の対面研修が、本年度は再開されたことに加えて、オンラインで実施する研修に参加したり、時間に縛られることなく受講できるネットで実施される研修に参加する機会が増加した。研修が、自らの保育を見直すことに繋がることを実感していることから、研修に参加する機会の確保とその体制作りを努めていくとともに、引き続き職種に応じそれぞれがスキルアップならびに資質の向上のため、意欲的に参加できるよう提案していく。

「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには、「A評価」と「B評価」と答えた者が、前年度より3%低下した。「C評価」と「D評価」とした職員が0となるよう、何でも相談できる雰囲気づくりと教職員間の相談体制の充実に一層努めていく必要がある。

2022年度 教職員の自己評価について の良かった点及び改善点

I 保育の計画性

指導計画の作成

- ・学年で話し合い、連携をとりながら取り組んできました。
- ・個別の指導計画の作成により、その時期のその子への見通しを持った支援をすることが出来た。担任との個々の子どもへの共通理解が、その後のスムーズな保育へとつながっていくことを実感した。日々の保育について、常に担任と連携し、話し合いが十分に出来る環境が整っていたことはとても良かった。
- ・指導計画の作成では、担任と担当児の様子を話し合っって今必要な課題は何か考えていくことで、一つひとつの課題をこなしていくことができたのではないかなと思う。
- ・指導計画は保育者同士でその都度話し合い、その時期に相応しい計画が見直ししながら進めている。
- ・昨年度の保育計画や指導案をもとにして、今年度変更するべきところや再考するべきところを検討してできたことが良かった。1か月の子どもの姿をもとに次の月を計画できた。
- ・担任間で相談検討しながら計画をたてられればベストだが、なかなかそのような時間がとれず、持ち帰って作成してまた園で直す・・・ことで時間を要してしまうことを改善したい。
- ・保育計画については、担任同士で話し合い 子ども達の成長と発達を考えて月案を立てていくようにしている。今、子ども達がどんな遊びに興味を持っているのかを考え、保育内容を考えていくようにしている。

環境の構成

- ・一人一人の様子や発達に合わせて活動を展開したり、遊びの環境設定したりように心掛けて保育を行ってきた。運動会や発表会などの行事や様々な活動を行うにあたって、学年で話し合い連携を取りながら保育の計画を行っていくことができたことは良かったと思う。4月から戸惑うことや悩むこともあったが、話し合いが行いやすく、なんでも相談しながら保育を行うことができたことを嬉しく思うと共に、そのような仕事環境であることにありがたく思う。
環境設定については一人一人の子どもが好きな遊びをとことん楽しむことができるように行ってきたが、制作ワゴンなどなかなか整えることができなかった部分もあったので、見直して行きたいと思う。
- ・昨年度も同じ学年を担当しているので、今年度は行事の見直しをしながら進めてきた。今までのものを活用しながら、その中で子どもたちにとって背伸びした内容は改善し何よりも子どもたちが自然と楽しめるものになるように工夫してきた。環境構成に関しては、目の前の子どもたちの姿を見ながら、何を設定したら遊びにつながるかを見据えながらできた部分もある。ただ、毎年、自分にとって毎日の環境構成が悩みでもあり、課題でもあるので、本を読んだり、他の先生の保育室を見せてもらったりしていきたい。
- ・去年よりも、子ども達が主体的に関わりたくなるような保育室の環境を作ることができたように

思います。段ボールの家や、仕切り、カーテンなどをつけて工夫するようになり、安心した空間で心地よさそうに遊び込み、友達との関わりも自然と増え、遊びがどんどん膨らんでいく姿が見られたように思います。

- ・環境も子どもの成長によって日々変わっていき戸惑う事もあったので、普段からクラスや子どもについて担任と話したり相談して、一人ひとりの子どもの特徴に合わせて関わられるようにしていきたい。
- ・限られた空間、時間の中で、子ども達が遊び込める空間を・・・となると、遊びの持続や友達との関りを考えていくと、子どもの年齢的に難しさも感じるが、クラス内で話し合っ進めていけるようにしている。

評価・反省

- ・学年会を行うことで3クラスの共通理解に繋がった。
- ・日々の保育について職員会議で話し合うことができ、日々の保育で小さな疑問や理解を共有することができた。
- ・3月、4月の時点で年間、どのような思いで保育をしていくのか？行事に参加していくのか？しっかり計画をたてておくことで理解の差や認識の違いがおきないと思う。
- ・だいたい計画通りに進められたと思います。その日に用意した本、ゲーム、手遊び歌などをやるようにしていました。本を読む時間が無い日もありましたが、次の日に読むようにしていました。昨年に比べると手遊び歌やゲーム、言葉遊び等が少なかったことを反省します。英語に興味を持っているお子さんがいると、いつもより沢山の歌を取り入れるようにしています。今年は普通だったかな。
- ・毎月の月案制作の際に、子どもたちの姿を振り返り、関わり方や環境設定について考え直し、1ヶ月の計画を立て実践することが昨年度よりは良くなったと思う。まだまだ実践に向けての準備が足りず、質が悪いと感じているので、準備をよりよくしていきたい。
- ・学年全体では担任同士コミュニケーションを頻繁に取りながら先を見通して計画を進めていけたと思う。自分のクラスの事だけでいうと、朝慌てて保育室の環境を整えたりする事が多かったので、前日の退勤前に少し余裕を持ち環境設定していきたい。
- ・学年での連携が十分にされなかったところがあるので、報告・連絡・相談を密にしていく。子どもたちの興味や関心のあるものや発想やつぶやきを聞き逃さず、それらを遊びにつなげていけるように計画を立てていく。
- ・子供たちの様子から、次の日につながる保育を目指してきた。また前月の保育を見直すことで、次の月の保育を考えることができたと思う。
- ・昨年よりも、保育室の環境をより良いものにしようと色々と考えて作っていましたが、これで終わりではなく、子ども達の遊ぶ姿からヒントをもらい、『もっとこうしたら楽しめるかな？こんなものを用意したらもっと、遊び込めて学びにつながるのかな？』と日々試行錯誤しながら保育の計画を立てたり、環境を作ったりしたいと思います。
- ・幼稚園楽しいな、明日も来たいな、と思えるような関わりや環境を心掛けるようにしている。2学期に入ってから、身の回りのことを自分から進んで取り組むなどの積極的な姿も見られている。子どもたちが、“自分でできた”と思えるような経験を増やしていきたい。

- ・子ども達が遊びたくなるように、相談しながら環境を整えていき、遊んでいる中で遊びが広がった時は、その時その時で環境を広げていくことを心掛けていけたと思います。
- ・乳児が安心して園生活が送れるよう、発達に合わせた環境づくりや、一人ひとりの成長段階に添えるよう生活リズムを構成している。
- ・担任ではないので計画は立ててないが、事前に聞いておく事で、先の見通しをもって環境設定をしたり、保育を進めていくことが出来たと思う。
- ・見通しを持って保育の計画を立て実行に向けて逆算し考えていくようにした。計画を実行する為の準備を具体的に綿密にし、前もって職員間で連携していけるようにしていくとよりよかったと思った。
- ・話し合い子ども達の興味のあることや楽しめることを話し合い環境を設定することができた。自分の保育を見直し、記録することにより次の保育に活かしたり進んで研究に取り組むことが出来た。毎日出勤していないため、クラスの様子や活動内容がわからないパートに、主担任は負担があると思う。家での仕事もあり大変だった。
- ・自分の休みが多かったため、クラスの計画がしっかり頭に入っていなかったこともあった。改善点として、クラスの保育士に休みの時に決まったことを積極的に聞いて把握するようにした。パートで主担任を任されると、どうしても休みが入ったり準備が難しいため負担にも感じた。やはり正規の保育者が主担任をされるのが望ましいと思う。今年は配置的に仕方ないのかなと思いつつ一生懸命させてもらったつもりです。
- ・その子なりの遊び方、楽しみ方に気付き、さらに楽しめるにはと遊びを発展させる言葉掛けや環境設定を心掛けた。自分の中で活動のねらいを明確にするようにした。手作り玩具をもっと増やしていきたい。
- ・月齢に合わせた保育ができるように指導計画に基づきながら、また個々に合わせた保育もできるように、担任同士、共有することを大事にした。
- ・保育の計画を立てたりはしていないが、周りの先生たちの保育計画を勉強し自分も計画立てれるように努力していこうと思っています。
- ・子どもの成長、発達に応じて担任間で話し合いをしながら概ね計画できた。
- ・毎朝、担任の先生から今日の予定を話してもらえるので、サポートしやすい。ただ、子ども達がすでにいるので、じっくりと話を聞ける状態ではない。

II 保育のあり方、幼児への対応について

健康と安全への配慮

- ・健康と安全面では園内の掃除や整理整頓のところが自分自身少し気になりました。保育室や様々な場所を日々掃除しているつもりですが、朝、テラスを掃除し終え、登園してくる子を出迎えていると『あっ！下駄箱に砂が溜まっているな。掃除しなければ！』と思いながらも、保育が始まり、降園後また忘れてしまっていることがあるので、気が付いた時に「そうじをする！」とメモを書いておいたり、子ども達と一緒に掃除をしたり、出勤にもう少しゆとりをもてたら良いのかなと思いました。
- ・戸外で遊ぶときは、常に見守り思いっきり遊べるように配慮できたと思います。また死角にならな

いように、自分の立ち位置に気を付けていました。

- ・玩具の消毒、換気、室温に気を付けて、できるだけ感染が広がらないように、感染症対策に気を付けた。怪我をしないように、子どもの側に付き、保育者同士の声掛けをし、未然に防ぐようにした。
- ・遊びの中で危険が予測される時に、幼児と一緒に考えるより提案してしまい、小さい学年の子なので難しさを感じる。

幼児理解／指導と関わり

- ・年齢に応じた成長、子どもの育ちなどを理解しながら保育をすることを心掛けた。
- ・一人ひとり、しっかりと向き合い丁寧にかかわってきました。毎年、外部の方に来ていただき、保育についてアドバイスをいただいていたが、今年度は、担任の声が届かず、子ども達の様子や関わりについて、アドバイスをいただくことができなかつたのはとても残念に思いました。
- ・一人ひとりを大切にすゝる気持ちを常に心にとめて、関わるようにしている。
- ・保育者主導の保育にならないよう、子どもの思い・成長を優先できるような保育を心掛けた。
- ・異年齢保育なので、年少さん座ってられないお子さん、飛び出すお子さんがいました。4月あたりでは、ホームクラスを最後までにやれるのか、戸惑ってしまう日が多く、このメンバーだと二人体制でも、やれない時期がありました。どうしたら皆がお話を聞いてくれるのか、どうしたら皆で仲良く遊べるのかという悩みが多かつた。担任の先生と連携しながら毎日過ごしていました。異年齢保育の難しさを実感しました。
- ・今年度は落ち着いて、子どもたちとゆっくり関わりすることができた。その中で、子どもたちとの関わり方が「保育者として」適切なのかは何度も考え、優しさと厳しさの使い分けを何度も検討し実践した。時には、他の保育者に意見をいただいたり、外部講師に保育を公開したりすることもあつた。これからも向上していけるように心がけていきたい。
- ・一人一人の特性や課題を見つけて、その子に応じた対応や関わり方をしてきた。また、それぞれが成長し、課題をクリアしてそれで終わるのではなく、次の課題を見つけて保護者の方と意見交換しながら、その子にとって何がベストな方法か考えながら保育してきた。今年度強く感じたのが、その子の成長にとってベストな方法は一つの方法や一つの考えではなく、いろいろな方面からのアプローチが大切であると感じた。今までいろいろな子どもと関わり、また何よりも長い時間その子と関わっているからこそ、見えてくる部分はあり、全部が全部、そこにあてはまるべきではないと感じた。引き続き、専門的な知識プラス、その子自身をしっかり見ていくことを心掛ける。
- ・子ども達の興味、関心に耳を傾け、個々の発達段階に合った遊びを一緒に楽しめるように常に考えている。100%実現はできていないのが悩み、、、うまく時間を使い、子ども達を巻き込み、一緒に環境を作っていけるように気持ちに余裕を持ちたい。一人ひとりの子どもに丁寧に関わり、消極的な子どもや自信がない子どもへの対応や、皆がどの様な場面で輝けるかを得意不得意を把握できる様努力した。
- ・子ども一人一人への細やかな対応を心掛け発達や個性など様々な視点から、それぞれに合った援助の工夫をしている。
- ・子どもと共に作り上げるということを見直すことができた。子ども達の主体性が伸びるきっかけ

になった面もたくさんあり、自ら作っていく楽しさを味わうことができた。

- ・日々子ども達の思いや考えには十分共感し、また子ども達一人ひとりの話をよく聞きスキンシップも沢山とるように日々心掛けてきました。まずは、保育者が一人ひとりの子どものことを大好き！と思って関わっていると、子ども達にも自然と気持ちが伝わり、安心して登園してもらえるよう思いました。
- ・毎日の保育で元気いっぱいなクラスの子どもたちと過ごす中で、9月から担任も変わり慣れない環境に不安を感じる子どもたちの姿も多く見られた。朝の登園を嫌がったりする子も多いが、子どもの気持ちを焦らすのではなく、その子のペースで気持ちを切り替えることで、幼稚園が楽しいなと思えるように心掛けている。
- ・一人ひとりの発達に寄り添った関わりができています。トラブルの対応は、気持ちに寄り添える言葉掛けを意識している。毎日笑顔で元気に健やかに成長できるよう、たくさんスキンシップをとるように心掛けている。
- ・どんな事をどんな気持ちでどのように楽しんでいるのか、どんな事に困っているのか・・・等、その時感じている子どもの思いを理解しようと、常に意識して保育をしていけたと思う。短期的な思いは理解できても、子どもの育ちや背景などが関係してくる長期的な思いもあり、対応に困った事もあったので、そういう事もふまえて対応できるように、相談したり話し合いをしていきたい。
- ・個別対応が必要な子が多いクラスだが、先生方といろんなことを相談しながら一人一人にあった援助が出来たと思う。今後も、一人一人に応じた声掛けや援助を心がけていきたい。
- ・子どもの背景や性格に合わせて寄り添うようにしてきた。一人一人に寄り添って保育をしていきたいと思うが、現実には手が足りなくなってしまう、うやむやになってしまうことも多い。配置基準をもう少し少なくしていただくと現場は丁寧な保育がもっとできるし、心の余裕も持てるような気がする。保育業務のなかで今までしていたから・・・というだけで行っていることもあり見直しも必要かと思う。乳児の毎月の制作（季節ごとでもいいのでは？）お別れ会のプレゼントなど省けるものを見直せば、もっとストーリーに向き合えある時間ができると思う。時間がない！
- ・一人ひとりの子ども達の性格や個性をつかめてきたことで、それぞれに合った言葉がけや対応をしていけるようになったことが良かった。
- ・ばたばたと1日が過ぎていく中で、じっくりと関わりたいと思う時でも、なかなかできないことが改善していくべき点だと思う。
- ・子どもたちとのスキンシップや笑顔での関わりを大切にしている。また、自分の気持ちを言葉に表すことが未熟なため、気持ちを理解したり、代弁したりすることを意識した。
- ・クラスの先生をはじめ管理職の先生とも話をしたが、特徴のある子どもとの関りについて反省をする場面があった。もっと違った対応の仕方があったのに、なぜそのような対応をしたのかと反省している。今後そのような事のないように、周りの先生方に助けてもらいながら保育を進めていきたい。
- ・子どもの気持ちに寄り添い、安心して過ごせるように言葉掛け、スキンシップを大切にしていけることを心掛けた。
- ・前年と同じ学年なので、経験や反省を保育に活かした事が良かった。

保育者同士の協力・連携

- ・一人一人の特徴や個性を十分に把握し、同じクラスの保育者間で（時には学年や園全体で）共有しながら、保育を行ってきた。中には、一対一の関わりが必要な子もいるので、その時間も十分に取ることができるように声を掛け合いながら、その子に合った対応を行うことができたことは、良かったと思う。また、子どもの対応で悩んだ時には、学年関係なくいろんな先生方と話し合えたことは良かったと思う。
- ・クラスの子ども一人ひとりを、出来るだけ様々な角度から観察をしていくことで、たくさんの気づきを得られることが出来た。そして、担任と小さな出来事も情報を共有し、その子について話し合い、分析することでより深くその子を知ることが出来た。いつも同じ視点で子どもを見るようにすることや、支援の方法と一緒に確認しながら保育をすすめることが、とても大切なことも改めて学ぶことが出来た。
- ・保育のあり方について、個々の資質の向上を目指せる環境を園全体が整える必要があるのではないのでしょうか？ この園の環境は、果たして、保育者としての資質と専門性の向上を意識した保育が出来ると、自信を持って言えるのでしょうか。保育者の資質向上のためには、研修の時間だけを学びの機会ととらえるのではなく、日々の保育の中で行われていなければ身につかないと感じます。常日頃から、保育者間や職員間でお互いに言いにくいことを話し合ったり、クラス運営について問題点を出し合ったり、子どもへの対応について指摘しあったり、保育の技術や方法を教えあったり学びあったり、といったことが自然かつ当たり前に行われていくような、意識の高い園であって欲しいと思うが、残念ながら現状は、そのようなレベルとは程遠く、お互いに注意し合えない、指摘しあえない、学びあえない、惰性に流れされるといった状態になってしまっているのではないかと感じます。
- ・全体に目を配りながら、他の先生と協力して個の子どもへの関わりを持つことができたと思います。危険な遊びや、危険な場所は声に出して、職員間で理解し合い子ども達に伝えることができたと思います。
- ・クラスの一日の流れを聞かせていただくことでスムーズな保育ができていくようにサポートしやすかった。改めて保育者同士の連携の大切さを感じた。
- ・それぞれの想いに応えられるよう保育を心がけていたが、十分に応えられているか、日々を振り返るようにしていく。
- ・怪我に繋がらないよう、職員の配置は声を掛け合うことができた。
- ・子どもの目線に立って、子どもの要求をきちんと聞いたり友だち同士のトラブルでどうしてそうなったのかを保育の中で保育者目線で共有し危険なところは気を付けるようにしていた。子どもから離れる時は、近くにいる保育者に伝えるようにしていた。

Ⅲ 保護者への対応について

情報の発信と受信／対応上の心がまえ

- ・保護者の話をしっかり聞き、時には子育てに対する悩みも聞きながら、保護者の方と一緒に一人一人の子どもにとって一番良いことを考えていくことを心掛けてきた。個人懇談は、普段話す機会がなかなか取れない保護者の方とも園や家庭での様子をゆっくり話し合える場となり、園とは違う

子どもの様子に、その子の新たな発見にも繋がった。園での様子をコドモンの連絡帳機能やドキュメンテーションを使って配信してきたが、初めて取り組むこともあり、わからないことや戸惑うことも多く、なかなか配信できない時もあったので、どのようにしたら配信できるか考え、作業時間についても自分自身で見直していき、来年度に向けて改善していきたいと思う。

- ・コドモンの連絡帳を使用しながら保護者の方と連携をとってきました。できるだけ、コメントをいただいたらすぐにお返事したり、保護者の方が心配されていることに対して、写真をつけてお知らせしたりしながら対応してきました。毎日、コメントくださる方に、毎日お返事できなかったことが悔やまれます。
- ・保護者の対応等について、保護者の思いに寄り添いながら対応することを心掛けるように気をつけている。
- ・取扱いに注意の必要なことは、個室を準備するなど慎重な対応を心掛けた。
- ・日々の保育の話しを登降園時を利用して直接話し、一緒に成長を喜び合うことができた。
- ・笑顔で対応するように心掛けていました。保護者に伝え忘れた場合、電話をかけるようにしました。
- ・朝の受け入れの際に、子どもや保護者との会話を重視して子保護者との関係を築くことを心がけた。2学期の懇談会では、自分の言葉足らずで、安心していただくべきところを不安やモヤモヤする懇談になった保護者もいて、言葉選びをより考えていくべきだと改めて考える機会となった。
- ・いろいろな子どもがいるように、いろいろな保護者がみえる。苦手意識をもつところまではいかないが、今年は保護者に対しての関わり方の難しさを感じた。特にある保護者の方は見えない壁を作っているようで、園での様子や姿を伝えても、あまり反応がない。そういう方もみえるとは思いますが、どちらかという先生と話がしたい、園での子どもの様子が知りたいという方がほとんどなので、接し方に悩むところである。送りやお迎え時に話す際もできるだけ早くその場を離れたい様子が伺われる。それでも根気よく子どもの成長や友達との関わりを伝えてはいきたいと思う。
- ・ドキュメンテーション・連絡帳の配信で子ども達の様子を伝える様にした。懇談時に、お家の方から温かい意見を頂き、更に“内容に磨きをかけよう！”と前向きに感じた。苦手意識のある保護者にこそ積極的に挨拶をし、ぎこちなさを隠しつつも会話を弾ませた。先入観を捨てていきたい。一人ひとりの怪我の把握については、帰りの会で確認するようになってからは、以前よりは保護者に伝えられていると思う。
- ・子どもの姿を伝えるという点では、分かりやすく具体例をだしながら伝えられるよう心掛けていく。また、良い点だけでなく課題となることや、どんな関わりをしているかも詳しく伝え保護者との共通理解をし、保育に努める。
- ・必要な範囲で個々に話をさせてもらう時間を取るなど、要望や意見を伺いつつ、園として対応できるもの、できないものを丁寧に検討していく。
- ・保護者の方々とのコミュニケーション、話し合いを密にとり、子ども達の環境を良くしていきたいと思う。
- ・保護者の方からの話は、丁寧によく聞き、的確なアドバイスはすぐにできなくても、保護者の思いや考え、悩んでいる気持ちに共感し、少しでも安心してもらえるように心がけました。子どもの長所や素敵なところを沢山伝えたり話したりし、保護者の方も、子育ての悩みは尽きないかもしれな

- いが、我が子はこんなにいい子なんだ！と親子共々自信が持てるように関わるよう心掛けました。
- ・保護者からの情報を、日頃から担任と情報共有が出来ていたため、担任が不在の時にも困ることなく保護者対応が出来た。保護者との間に、何か気になることや誤解が生じた時には、早めに丁寧に対応することが大切だと思う。
 - ・元気いっぱいこちらから挨拶をすることで、安心して子どもを預けてもらえるよう心掛けている。保護者の方の中には、「先生、いつもありがとう」と優しく声を掛けてくださる方もみえ、その言葉がとても励みになり嬉しく思う。保護者の方とお話する際に園での様子を伝えることが多いが、家庭での様子なども聞きながら、子どもの成長をお互いに喜び合える関係を築いていきたい。
 - ・保護者の話はしっかりと耳を傾け、職員間で伝え合ってきました。
 - ・担任をサポートする側として保護者の方と話す機会は少ないが、話す際は丁寧に話を聞き、対応するよう努めた。また、保護者の方からの要望等は担任を通して話を聞き、対応するようにしている。
 - ・常に笑顔で挨拶し、話に耳を傾けるようにしている。他のクラスの保護者の方への対応も、臨機応変に対応し、クラス担任への報告を必ず行う。
 - ・保護者と関わる際は、笑顔で、話しかけやすい雰囲気を作っていき、積極的に挨拶していくように心がけた。これからも安心して園に預けてもらえるように、いい雰囲気づくりをしていきたい。
 - ・自分なりに、安心出来るように分かりやすく伝えるようにと、気を付けて対応しているつもりだが、保護者の思いをしっかりと理解し、応えることが出来ているのか、不安に感じることもある。
 - ・園であったこと、その日の様子や発見したことなどを伝えることが出来たと思います。笑顔で挨拶や声を掛けて、話をしっかりと聞き話をした内容は、担任で共有できるようにした。
 - ・発達に課題がある子どもの保護者への言葉選びや伝え方が非常に難しく感じた。保護者の思いにも寄り添いながら時間をかけて対応していかないといけないので、幼保の連携や申し伝えが大事になってくると思う。
 - ・懇談会を通して、普段じっくりと話す時間がとれない保護者とも話をすることができたことは良かった。
 - ・遅番の子どもが多いので、送迎の際に他の保護者もいると、込み入った話をしにくいことがあり、改善していきたい。
 - ・毎日の連絡帳はあるが、その日の子どもの姿を保護者に直接伝えることを意識した。だが、もっと回数や人数を増やすことができるよう、今後も意識していく。また、保護者との対話は担任間で共有するようにしている。
 - ・保護者からの相談があったときは、保護者の気持ちに寄り添いながら話を聞き、その後もケアも大切にした。
 - ・保護者からの意見を聞いた時は、しっかり聞いていた。意見を聞いてわからなかったときは、他の先生に聞いて後日伝えたりその日に分かれば、その日に伝えるようにしていた。
 - ・常に笑顔でこちらから話しかけ、話しやすい雰囲気を中心掛けた。話をした内容については担任間で共有できるようにした。

要望への対処の仕方

- ・稀にですが、登園時に上靴など、物品注文を受けていて、帰りに忘れていたことがあったので、すぐにメモを書くなど徹底していきたいです。
- ・保護者への対応について、丁寧に行っていると思っている。要望を聞き入れることだけでなく、解決策を一緒に話し合ったりすることで、その子の育ちや成長と一緒に考えていくようにしている。

IV 地域や自然や社会との関わり

地域・自然・人々との関わり

- ・地域の自然や社会と関わる機会はほとんどなかったが、近所の公園に散歩に行く機会を比較的多く持つことができたことは良かったと思う。今後も、機会があれば近くの公園に遊びに行く機会を持つことができるようにしていきたいと思う。
- ・探検の森に出かけたり、近くの公園にでかけ、どんぐりを拾ったり、地域探検にでかけ、地域の方と交流を深めることができました。毎年、快く引き受けてくださる方々に感謝しかありません。
- ・地域のボランティアの方や、保護者の方の様々なお手伝いにより、園が支えられ、より良いものとなっていることに感謝したい。
- ・コロナ禍の制限がある中でも工夫をして、もっと地域の人や卒園生と触れ合う機会が設けられたら園が地域にとってより身近な存在になると感じる。
- ・今年は散歩や園外保育で、園周辺の公園や美術館、いちご農園を利用し、地域と関わるすることができた。
- ・自然に囲まれ、恵まれている環境にあることを幸せに感じます。この自然を活かした中で、保育環境を整えていきたい。
- ・地域で働いている人の様子を見たり、触れ合ったりする機会が持てよかった。今後も地域との触れ合いを通して、自分が住んでいる街に愛着心をもち、いろいろな人たちが頑張っている姿を子どもたちに感じていって欲しい。
- ・今年度も、散歩によく行き「こんにちは」と声をかけてもらう等、地域の方とも触れ合うことができ良かったです。また、豊ヶ丘の団地内には、子ども達が喜ぶ、大きなどんぐりが落ちている公園があるので、秋にはどんぐり拾いにも行き、子ども達も大喜びでした。また、三重大農場にも遠足で行かせてもらい、みかん狩りをさせてもらったり、大きなトラクターを見せてもらったり、農場で働く方に優しく声をかけて頂いたり子ども達にとって良い経験ができました。
- ・暑い夏や、寒い冬になると、どうしても地域の自然等と関わりにくいですが、工夫しながら無理なく関われるよう考えていきたいです。
- ・遊び体験の少なさを感じる子どもたちが、森での自然体験を連続して続けた時に、見る見るうちに子どもの姿が変化していく様子を目の当りにし、自然体験の効果を実感することが出来た。自然との関わりから得られる解放感や高揚感、達成感など、日々の保育の中では得られない体験が、子どもたちの成長へと繋がっていくことを感じた。
- ・子どもたちは、探検の森や芝生広場に行くことが大好きである。自然豊かな場所で思いっきり体を動かして遊んだり、自分たちで育てた野菜を食べるなど豊かな経験を心から楽しんでいると思う。これからも積極的に取り組んでいきたい。

- ・園の山に行った時にどういった草花や木があるのか、どういう遊び方ができるのか、子どもたちの発想を大切にしながら遊びが発展していくようなアイデアを日頃から少しずつ学んでいきたいと思う。
- ・日頃から子どもたちが自然に触れ合えるよう散歩や公園に出向くように計画を立てている。地域の方々との関わりも大事にし、子育て支援にみえた方とも、保育の中で関われる環境をつくっている。
- ・散歩にいった際、四季の移り変わりに注目した言葉がけをしたり、出会った人への挨拶や対応に気をつけていった。身近な木や草花の名前を覚えていきたい。
- ・良い自然環境が近くに沢山あるので、気候や子ども達の様子に合わせて取り組むようにした。地域の方々にも挨拶をするなどし、良好な関係を築くようにした。
- ・気候の良い日は、散歩に出かけ季節を感じたり自然と触れ合いを持つようにした。また、地域の人たちとすれ違う際には、挨拶をしたり声を掛けてもらい交流を持つことが出来た。
- ・保育園周辺の自然を感じられる場所に散歩に出かけている。子どもたちの好きな犬を見に出かけたり、公園や探検の森に遊びに行くことが保育者自身も楽しみになっている。もっと探検の森に出かける機会を増やしたい。
- ・散歩を通して、挨拶を交わしたり一言二言会話を交わすことができた。公園で遊んだり、園周りの道路を歩くことで、自然や地域との関わりをもてたことは良かった。
- ・豊が丘の地区のことをあまり把握できていないので、自分から知ろうとする姿勢をもたなければいけないと思った。
- ・散歩のルートを考えたり、どんぐりなど木の実が落ちている場所の下見をしたりして保育の準備をした。植物の名前は分からないものが多いため、勉強していきたい。
- ・園外に散歩に出かける時には、季節を感じながら子ども達と歩いている。また、地域の方に積極的に挨拶をすることで、子ども達が自然に「おはようございます」「こんにちは」などの声が出るようになってきた。
- ・季節を感じられるよう、散歩に行き、色々な経験をした。
- ・散歩に出かけたりするときは、近所の方に挨拶をしたり少し交流したりしていた。道端に自然を見つけた時は、お花や落葉などを子どもに触れさせてあげたりしていた。
- ・気候が良い日はお散歩にでかけ、季節を感じるようにした。また地域の方々にも声をかけてもらい交流を持つことができた。
- ・探検の森を大いに活用した事によって、自然の移ろいを感じたり、お友達に優しく接したり、逞しくチャレンジしたりと、好奇心がかなり刺激されたのが良かった。また、散歩の際には道路での安全や近所の方と挨拶を交わす事にも気付くきっかけになっていると思う。

V 研修と研究について

研修・研究への意欲・態度

- ・以前に比べ、研修に参加する機会が増え、様々なことを学ぶ機会を得ることができた。今後も園内研修だけでなく、様々なことを学ぶ機会を大切にしていきたいと思う。
- ・ドキュメンテーションや連絡機能を使って、一人ひとりが輝いた写真とコメントを送ることで、よ

り、今まで気づけなかった表情やしぐさ、どんな遊びが好きなのかなど、より深く子どものことを知ることができたように思います。

- ・ 対面研修ではないが、オンラインでの受講が増え参加できる機会が増えた。また、研修に参加することで自分の課題も見つかり、自分を見つめ直し、保育について考える機会となりよかった。
- ・ オンラインでの研修が増えることで以前に比べて研修が参加しやすくなった。
- ・ 研修内容によってはオンラインでもよいものだったり、対面の方がよいものだったりもするので内容よっての判断をしっかりとしたい。
- ・ 外部講師を招いての園内研修をすることで客観的な意見や観方の意見をいただけた。
- ・ ICT を利用することで研修の準備の時間が取られず業務内容の短縮に繋がったと感じる。
- ・ 自宅でも可能だった研修を受けることが出来なかったことを反省しています。
- ・ 今年度は園内研修担当として、ドキュメンテーションを中心に研修を作ることに関わることができた。担当になったことで、勉強する機会にもなった。保育の部分だけでなく、今までと違った視点をもって仕事することもできた。まだまだ自分の勉強不足を感じるので、より勉強していきたいといます。
- ・ 今年度は園としてドキュメンテーションをさらに深めるということで園内研をやってきたが、他の分野やテーマでもみんなといろいろ話し合っていきたいと感じている。環境構成であったり、日々の保育の悩みであったり、また、一人の子に焦点をあてて、話し合ったり、もっといろいろな面から保育を見ていく必要がある。
- ・ 園内研修では、意見が言いやすい雰囲気、良い場になっていると思う。
- ・ 【のびる子】を無くすことで、ドキュメンテーションの充実について職員皆で前向きな意見を出し合い、実践できて良いと思う。
- ・ コロナ禍で、ZOOM 研修が増えた事で、時間に縛られることなく参加できてありがたい。
- ・ 日々変化していく子どもたちの状況や課題など新しい情報に興味を持ち、実践できるように努力していく。
- ・ 多くの研修に参加することができ、とても勉強になった。公開保育では、いろいろな保育に触れることができた。今後も、研修の場に参加し、資質向上を図っていきたい。
- ・ 今年度は、研修会によく参加させてもらったように思います。たくさんの良い学びがあったので、日々の保育で生かしていきたいといます。研修で学んだことを、職員会で話す機会がありますが、パートの時間で働いている先生にもたまたま話したら、日々の保育の悩みがストンと落ちたとおっしゃってくださったので、研修会で学んだ話を時間を作ったり、見つけたりして、簡潔に良かった話や参考になりそうな話を気軽に伝えていけたらと思いました。
- ・ 加配保育士にも学びの機会が必要だと思う。個々の子どもに対する具体的な支援の方法について、その子に今求められる配慮は何か、加配のクラスの子へのサポートの方法について。といったテーマで加配保育士対象の研修を行って欲しい。
- ・ たくさんの研究を経験することで、毎日の保育に活かせるような知識を学ぶことができた。ドキュメンテーションについての研修など、どうすればもっと良いものになるのかをグループに分かれて話し合ったりすることで学びを深めることができた。
- ・ 園内研修などの記録を読ませて頂いて、色々学ばせて頂いています。

- ・ eラーニングでの研修を受け、自分の保育と重ね合わせて考えることで、日々の保育を振り返り、学んだことを取り入れるよう心掛けている。
- ・研修にはなかなか参加出来ていないが、自宅で参加出来るものや、関心を持っているものは資料を集めたり、参考になる書物で学んでいる。
- ・家庭の都合で研修会などの参加はほとんど出来なかったが、本を読んだり、調べたり、保育に活かしたり、スキルアップにつながるよう学んでいった。保育の質を高められるよう、これからもいろんな事を吸収したり、学んでいきたい。
- ・研修を受けることで、改めて気付くことやより深く知ることが出来て良かった。また、リモート研修が増え受講が自分のタイミングで受けられるようになったことは、時間がない現状ではありがたかった。但しパソコンの扱いが苦手なため、どうしてもいいかわからず時間がかかってしまう点を改善していく必要がある。
- ・研修にあまり参加出来ませんでした。が、議事録を見て、とても勉強になりました。
- ・携帯で見ることができる研修は参加できるが、勤務中の研修や研究は参加できないため、参加した保育者の聞いたり意見を求めたりしてきた。
- ・オンラインの研修があることで、自分の体調を見ながら自宅で学ぶことができるようになり、とても嬉しく思った。自宅でじっくりと研修を受ける時間は集中もでき、良かった。一方で、自ら出かけて研修を受けることは感染症のこともあり、どうしても消極的になってしまっていることを反省している。
- ・職員会議での園内研修では、普段の様子をあまり知らない、他のクラスの子の成長について話すのは少し難しさも感じたが、その子についてよく知ることができたり、また他の先生方の見方や考えを聞くことができたりし、とても勉強になった。日々の保育を振り返り、子どもの動線などについて担任間でよく話し合い、実践、反省することができた。
- ・毎月の園内研修をすることで、自分のクラスだけでなく、他のクラスの子どもの成長、学びを知ることができ、それを共有することができた。
- ・保育のあり方や悩みについて、自分から積極的に話を聞いてもらうようにしていかなければならないと思う。
- ・保育の悩みは言い出しにくいところもあるが、なるべくためずに話せるよう心がけている。
- ・リモート研修ができて、良い勉強になりました。職員会議でも、色々意見を言い合い、よりよい保育ができて良かったです。
- ・会議や研修を受ける際、自分の思っていることを発言をしたりはするが、他の先生たちのような意見を言えていないので、もう少し勉強して自分もそのようなことを言えるようになれたらいいと思う。
- ・園内研修では様々な角度から子どもをみたアドバイスをいただき、取り組み方法や関わり方を学ばせていただいた。対面研修では他園の先生方と交流を持つことができ各園での取り組みなどを直接、話を聞くことができた。WEB研修の内容も改めて知ることが多く、これからの保育に活かしていきたい。
- ・14時の降園時間を迎えた後、それぞれ役割があるので同じクラスの職員同士でもじっくり話をする時間が取れない事が非常に残念であるが、代わりに僅かな時間を見付けてお互いの考えを話し、

同じ方向を見て保育できた事は良かった。しかし、本当に時間が足りないので、不完全燃焼である事も否めない。